
2016年度 第2四半期

決算説明資料



2016年 11月10日

2016年度 第2四半期業績

- 連結業績…………… 4
- 事業セグメント別売上高・経常利益…………… 5
- 事業セグメント別業績内訳…………… 6～8
- 連結貸借対照表…………… 9
- キャッシュ・フローの状況…………… 10
- 設備投資・減価償却費…………… 11

2016年度 通期業績予想

- 通期連結業績予想の修正について…………… 13
- 事業セグメント別売上高・経常利益（予想）…………… 14
- 年間配当（予想）…………… 15

注 記 事 項

本資料に掲載されている目標数値ならびに将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものであり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記載している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

2016年度 第2四半期業績

2016年度 第2四半期連結業績

(単位：億円)

	2015上期	2016上期	前年同期比増減 (率)
売上高	3,231	3,139	▲92 (97.2%)
営業利益	164	173	+8 (105.1%)
(営業外損益)	6	▲1	▲7 (-)
経常利益	171	172	+1 (100.7%)
(特別損益)	22	1	▲21 (3.9%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	127	103	▲23 (81.5%)
自己資本	2,334	2,403	+69 (103.0%)
総資産	5,650	5,657	+6 (100.1%)
経常利益率	5.3%	5.5%	
ROE	5.5%	4.3%	
EPS	64.68円	52.93円	
自己資本比率	41.3%	42.5%	
ネットD/Eレシオ	0.56	0.53	

2016年度 第2四半期 事業セグメント別売上高・経常利益



(単位：億円)

		2015上期	2016上期	前年同期比	主な売上高・利益増減要因
産業ガス関連	売上高	950	976	102.7%	<ul style="list-style-type: none"> ●粗鋼生産の回復に伴い、高炉向けオンサイトが緩やかに持ち直し ●顧客操業度に濃淡あるも、地域での新規獲得により、ガス供給は総じて順調 ●燃料費調整額によりコスト改善
	経常利益	59	70	120.1%	
ケミカル関連	売上高	482	314	65.2%	<ul style="list-style-type: none"> ●コールケミカルは、円高・原油価格低下の影響により、販売減少 ●タール蒸留事業は市況悪化、ニードルコークス需要減で厳しい状況 ●川崎化成工業は、汎用化学品・キノ系製品の販売減少
	経常利益	6	▲6	-	
医療関連	売上高	574	538	93.8%	<ul style="list-style-type: none"> ●医療用酸素が新規病院獲得などにより、前年並み数量確保 ●設備工事は、大型・中核病院受注拡大なるも、完成工事件数が足踏み ●在宅医療はレンタル数増加、医療機器は適用拡大のNOが好調 ●医療サービスは、受託滅菌が伸長するも、SPDは販売減少
	経常利益	31	29	91.8%	
エネルギー関連	売上高	198	171	86.5%	<ul style="list-style-type: none"> ●原油価格下落に伴い、LPガスの販売単価低下 ●LPガスは燃転や省エネ機器拡販、電子マネー付与新サービスで数量増
	経常利益	9	10	110.1%	
農業・食品関連	売上高	458	567	123.9%	<ul style="list-style-type: none"> ●農産事業は、調達量減少なるも、生産効率向上などにより堅調 ●飲料事業は、需要期の数量増加、新規受託の拡大などにより堅調 ●九州屋、高谷商店、AW農園、AW十勝食品、大山ハムの連結効果
	経常利益	19	25	130.4%	
その他 (海水、物流、その他)	売上高	570	574	100.5%	<ul style="list-style-type: none"> ●塩事業は、家庭用・業務用一般塩、特殊製法塩の販売が堅調 ●マグネシア事業は、海外向け高級電磁鋼板用マグネシア販売減少 ●物流事業は、食品物流の荷扱い量増加、配送・庫内業務効率化で順調
	経常利益	43	40	93.2%	
(調整額)	経常利益	4	4	107.9%	-
合計	売上高	3,231	3,139	97.2%	-
	経常利益	171	172	100.7%	

<産業ガス関連セグメント>

(単位：億円)

	2015上期	2016上期	前年同期比	主な売上高増減要因
ガス	604	576	95%	<ul style="list-style-type: none"> ●高炉オンサイトの数量回復なるも、電気代変動影響により売上減 ●エアセパガス全体の数量増加、エレクトロニクス向けバルクガス堅調 ●炭酸ガスが需要期に入り需給タイト
機器・工事	160	211	132%	●ガス供給設備工事が増加
情報電子材料	186	189	102%	●海外子会社2社新規連結
計	950	976	103%	

<ケミカル関連セグメント>

(単位：億円)

	2015.上期	2016.上期	前年同期比	主な売上高増減要因
コールケミカル	352	200	58%	<ul style="list-style-type: none"> ●ガス精製は、コークス炉ガス価格が低下、販売数量減少 ●粗ベンゼンが原油価格下落により販売価格が低下
ファインケミカル	45	47	104%	●セグメント移管に伴う売上高増加
川崎化成工業	86	67	78%	●市況悪化に伴う汎用化学品の販売価格低下、キノン系製品の販売減少
計	482	314	65%	

シーケム(持分益)	▲5.4	▲9.4	—	●原油価格下落に伴う市況悪化、ニードルコークス需要減少
-----------	------	-------------	---	-----------------------------

2016年度 第2四半期 事業セグメント別業績内訳（2）

<医療関連セグメント>

（単位：億円）

	2015上期	2016上期	前年同期比	主な売上高増減要因
医療ガス	45	45	98%	●医療用酸素は、新規病院獲得などにより前年並み数量確保
設備	118	106	90%	●大型・中核病院をターゲットに営業推進するも、前年度の受注残が少なく減収
医療サービス	226	197	87%	●受託滅菌が伸長するも、SPDが契約病院見直しで販売減少
医療機器	17	22	130%	●一酸化窒素吸入療法が、症例適用の拡大により好調
在宅医療	46	47	102%	●在宅酸素濃縮器のレンタル数増加
その他	121	121	100%	●ミサワ医科工業 新規連結
計	574	538	94%	

<エネルギー関連セグメント>

（単位：億円）

	2015上期	2016上期	前年同期比	主な売上高増減要因
LPガス	179	158	88%	●LPガス、灯油とも原油価格下落で販売単価が低下
天然ガス関連ほか	18	13	69%	●LNGの販売単価低下ならびにLNGタンクコンテナ販売減少
計	198	171	86%	—

2016年度 第2四半期 事業セグメント別業績内訳（3）

<農業・食品関連セグメント>

（単位：億円）

	2015上期	2016上期	前年同期比	主な売上高増減要因
農 産	122	214	175%	<ul style="list-style-type: none"> ●台風被害あるも、北海道野菜の集荷業務に注力し販売数量を確保 ●九州屋、高谷商店、エア・ウォーター十勝食品 新規連結
食 品 加 工	81	106	130%	<ul style="list-style-type: none"> ●業務用の生ハム、ソーセージが販売減少 ●大山ハム 新規連結
飲 料	254	247	97%	<ul style="list-style-type: none"> ●飲料事業は好調なるも、一部客先でフルコストから加工賃のみとなり減収
計	458	567	124%	—

<その他セグメント>

（単位：億円）

	2015上期	2016上期	前年同期比	主な売上高増減要因
日 本 海 水	111	120	108%	<ul style="list-style-type: none"> ●一般塩の販売数量が増加 ●環境事業が水酸化マグネシウム設備増強に伴い販売数量増加 ●発電事業は、赤穂工場の本格稼働に伴い売電数量増加
タ テ ホ 化 学	48	44	91%	<ul style="list-style-type: none"> ●海外向け高級電磁鋼板用マグネシア販売減少
海 水	160	164	103%	—
物 流	195	209	107%	<ul style="list-style-type: none"> ●一般荷扱い量増加、食品物流の新規受託増加および料金改定
そ の 他	216	201	93%	<ul style="list-style-type: none"> ●エアゾールが人体用・自動車用・家庭用品向け販売増加 ●リース事業売却に伴う売上高減少
計	570	574	101%	

(単位：億円)

	2015期末	2016上期	増減
総資産	5,758	5,657	▲102
流動資産	2,421	2,265	▲156
固定資産	3,337	3,391	54
負債	3,197	3,039	▲158
流動負債	1,870	1,721	▲149
固定負債	1,327	1,318	▲9
自己資本	2,347	2,403	56

キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2015上期	2016上期	増減
営業キャッシュ・フロー (①)	228	314	86
投資キャッシュ・フロー (②)	▲167	▲158	9
財務キャッシュ・フロー (③)	▲39	▲109	▲70
キャッシュ・フロー合計 (①+②+③)	22	48	25
現金及び預金等の期末残高	311	289	▲22
フリーキャッシュ・フロー	61	156	95

(単位：億円)

	2015上期	2016上期	増減
設備投資	163	179	15
減価償却費	131	128	▲4

2016年度 通期業績予想

2016年度 通期連結業績予想の修正について

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益につきましては、期初予想の通りといたします。

(単位：億円)

	2015通期実績	2016通期予想	前年比増減 (率)	
売上高	6,606	7,000	+394	(106.0%)
営業利益	395	425	+30	(107.5%)
経常利益	351	420	+69	(119.7%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	201	230	+29	(114.2%)
有利子負債	1,578	1,777	+199	(112.6%)
自己資本	2,347	2,540	+193	(108.2%)
総資産	5,758	6,170	+411	(107.1%)
経常利益率	5.3%	6.0%		
ROE	8.7%	9.4%		
EPS	102.73円	117.97円		
自己資本比率	40.8%	41.3%		
ネットD/Eレシオ	0.57	0.60		

2016年度 事業セグメント別 売上高・経常利益（予想）

（単位：億円）

		2015年通期	2016年通期			前年比	
		実績	期初計画	見直し計画	差	増減	率
産業ガス関連	売上高	1,948	2,050	2,050	0	+102	105%
	経常利益	142	152	158	+ 6	+ 16	111%
ケミカル関連	売上高	870	830	680	▲150	▲190	78%
	経常利益	▲49	4	▲8	▲12	+ 41	-
医療関連	売上高	1,245	1,350	1,350	0	+105	108%
	経常利益	87	100	100	0	+ 13	115%
エネルギー関連	売上高	464	510	460	▲ 50	▲ 4	99%
	経常利益	36	37	39	+ 2	+ 3	108%
農業・食品関連	売上高	916	1,010	1,210	+200	+294	132%
	経常利益	30	32	34	+ 2	+ 4	113%
その他関連	売上高	1,164	1,250	1,250	0	+ 86	107%
	経常利益	91	86	89	+ 3	▲ 2	98%
調整	経常利益	14	9	8	▲ 1	▲ 6	-
合計	売上高	6,606	7,000	7,000	0	+394	106%
	経常利益	351	420	420	0	+69	120%

* 調整額：各セグメントに帰属しない一般管理費等

配当性向目標：連結純利益の30%

（単位：円）

1株あたり連結純利益および配当金					
	2014年度		2015年度 (実績)		2016年度 (予想)
1株当たり連結純利益	105.75	➡	102.73	➡	117.97
中間配当金	13.00	➡	14.00	➡	14.00
期末配当金	15.00	➡	14.00	➡	14.00
年間配当金	28.00	➡	28.00	➡	28.00

本資料に掲載されている目標数値ならびに将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものであり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。

そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記載している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。